

CS こひつじ科礼拝式次第

2021年3月28日 午前9時30分

2021年度年間テーマ：「光の子として歩もう！～イエスさま 来てください～」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「しかし、わたしたちは昼に属していますから、信仰と愛を胸当てとして着け、

救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいきましょう。」 テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5章8節

53、あさです（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ ヨハネによる福音書 19章28-37節

この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソブに付け、イエスの口もとに差し出した。イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。

その日は準備の日で、翌日は特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男と、もう一人の男との足を折った。イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかった。しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出た。それを目撃した者が証しており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。これらのことが起こったのは、「その骨は一つも砕かれない」という聖書の言葉が実現するためであった。また、聖書の別の所に、「彼らは、自分たちの突き刺した者を見る」とも書いてある。

おはなし 「キリストの受難」

加藤良明先生

ある男の人が広げられた両方の手首に大きな釘を打たれ、十字にした木の柱に吊るされました。足首の辺りにも手首と同じように大きな釘が打ち込まれ、もう自由に体を動かすことはできません。その姿は着ていた服が剥ぎ取られ、下着だけを身につけた様子です。鞭を打たれた体中の傷から真っ赤な血が流れ落ちていきます。その男の人がとても重い罪を犯したということで、最も苦しくて残酷な十字架刑によって処刑されようとしています。弱々しく息をする中、一言「渴く」という言葉を発します。それを聞いた人々は、その男の人の口元に古くなったぶどう酒を差し出しました。男の人はそのぶどう酒を飲むと、何かを確信した様子で「成し遂げられた」と言いました。そして、そのまま息を引き取りました。

これは約2000年前、ユダヤの国で行われたある死刑の様子です。この処刑を見ていた人々で、その男の人の親しい人たち以外は何か特別なものとは思っていなかったことでしょう。とても重い罪は十字架刑によって命を奪うということが、ローマ帝国という大きな国の力が強かったユダヤの国でのやり方ではありました。その罪は「ユダヤの王」を名乗ったことによるものでした。

この十字架刑が誰の何のために行われたものかということ、教会に集められた私たちは知っています。その男の人が言った「渴く」の意味。主なる神さまから切り離され、決して渴くことのない永遠の命に至る水を与えられない渴きの悲惨さというもの。神の生贖の子羊となり、この世の人々のために救いを「成し遂げられた」ということも知っています。その男の人の名前もです。

これらの出来事は後に書物として記されます。その書き出しはこのように始まります。

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

今週はイエスさまが私たちの生きる地上に来られた意味を覚える一週間、受難週です。神の子羊として私たちの救いの生贖となってくださったイエスさまを覚え、感謝のこころを持って毎日を過ごしましょう。

* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂 2 階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

おいでの際におささげください。

26、十字架の上の (こどもさんびかをお用ください)